

産学官 FRONT LINE

「知の融合と異世代交流による地(知)の拠点へ」

～ Center of Community 事業における挑戦～

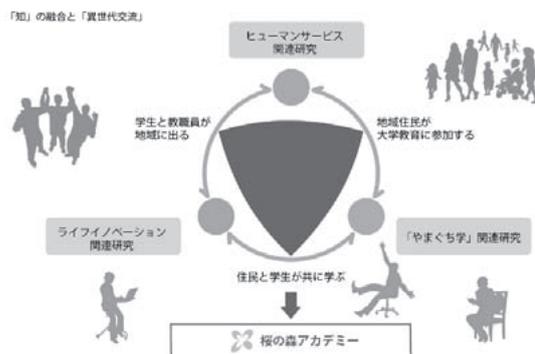
山口県立大学 附属地域共生センター 所長 加登田 恵子

山口県立大学

■ 存在感のある“地(知)の拠点”へ

山口県は、全国有数の少子高齢化先進県であり、さらに県土の大半は「中山間地域」が占めています。そこに存する県立大学として、「住民の健康の増進」及び「個性豊かな地域文化の振興」というテーマは、今後の成熟社会の有り様を探求する重要な研究課題であるとともに、県民のQOL(生活の質)を規定する基本的な地域課題です。

本学は、国際文化学部・社会福祉学部・看護栄養学部、ならびに国際文化学研究科・健康福祉学研究科から構成されており、かねてよりそれらの専門的特性を生かす方向で、とくに「健康・福祉分野」や「まちづくり分野」において、山口県のシンクタンクとして着実な地域貢献活動を展開してきました。2014年に採択された文部科学省のCOC事業では、産学公連携を強化する「共生研究システム」と、異世代交流をキーワードに学生と県民の交流学習を推し進める「共生教育システム」の2つのシステムを構築することにより、「地域に存在感のある大学を目指す」という本学の中期目標・ならびに中期計画の展開を加速化しようと取り組んでいます。



■ 共生研究の展開と附属地域共生センターの役割

附属地域共生センターは、本学の地域貢献活動を推進するために「共生研究部門」「共生教育部門」の2つの部門とそれらをマネジメントする「企画調整室」で構成されており、「共生研究部門」が産学公連携の主たる推進母体です。「共生研究部門」は、大学の研究シーズの地域社会への広報・発信、地域の研究ニーズの学内向け広報・FD^{*}の開催、共同研究・受託研究の受け入れ相談、研究シーズと地域ニーズのマッチング、研究成果の地域社会への発信支援等、大学と地域を取り結ぶための役割を担っており、専任のコーディネーターを配置しています。また「企画調整室」は、自治体や企業・団体との連携協定締結を推進しています。

※FD (Faculty Development) : 授業内容・方法を改善し向上させるための組織的取り組み

■ 共生研究を推進する「知の融合 (MCBC) 」

本学の持ち味を生かし、学際的でダイナミックかつ柔軟で創造性あふれた研究を展開するために、「知の融合 (MCBC = Multidisciplinary, Cross-Border Cooperation) 」をモットーに学部・学科の枠を越えて研究者を組織して「健康福祉社会づくり」、「ライフイノベーション」、「新やまぐち学」の3つの研究チームをつくり、地域課題に向けて総合研究に取り組んでいます。

(お問い合わせ先)

〒753-8502 山口県山口市桜島3-2-1

山口県立大学 附属地域共生センター

TEL : (083) 928-5622

E-mail : cccd@yamaguchi-pu.ac.jp



ライフイノベーション国際フォーラム



サービスデザイン手法によるナースウェアの開発